北海道・共春遺跡出土の縄文時代人骨*

平本嘉助¹⁾, 本田克代²⁾, 豊原熙司³⁾

1) 聖マリアンナ医科大・第2解剖**

2) 標津中学校

3) 標茶町郷土館

要約 1976年, 東北海道において縄文時代晩期に属する比較的保存の良い人骨が2個体分出土した。この2個体の頭蓋について計測可能な項目および頭蓋形態小変異について示す。これらの頭蓋の形質につき, 同じ東北海道のほぼ同時期に属する緑ヶ岡遺跡出土人骨との類似性が強く示唆される。

1. はじめに

1976年10月, 北海道野付郡別海町字共春から, 農業改善事業の一環としての格納庫建設工事の際, 偶然人骨2個体分が発見された。これらの人骨のうち1号人骨は既に工事関係者らによって取り上げられていた。1号人骨の頭蓋は頭頂部後方および後頭鱗を欠く点を除けば保存の良いものである。2号人骨は筆者らが取り上げたが, 頭蓋のほぼ右半分を欠損しており, 保存状態は良好とは言えない。

今日まで東北海道においての発掘調査により縄文時代人骨が出土した例としては, オホーツク沿岸ではトコロ貝塚(鈴木・寺沢, 1963), ウトロ遺跡(米村・百々・山口, 1979)などがある。また太平洋沿岸では釧路市の東釧路貝塚(山口・小沼, 1962, 山口・山野, 1966), 緑ヶ岡遺跡(山口, 1964), ヌサマイ遺跡, 東釧路第3遺跡(高山, 1978), 貝塚町一丁目遺跡などがある。人骨を出土したこれらの遺跡はいずれも海岸近くに所在するものである。これに対し, 共春遺跡はいわゆる裏摩周に位置し, 西別川の河口から48kmほど内陸に入った右岸段丘上にある。共春遺跡出土人骨は他の遺跡出土の人骨より比較的保存の良いものであり, またやや内陸に入った地理的条件からも貴重なものと考えられる。

2. 埋葬状態および伴出遺物

1号人骨の出土状態は不明である。2号人骨は頭をほぼ南に向けた左側臥屈葬であった。この2号人骨周辺には多量のベンガラが散布され, 特に頭部付近は骨

が赤く染まるほどの量であった。1号人骨についても頭蓋は赤く染まっており, 2号人骨と同様の状態にあったと考えられる。

1号人骨および2号人骨の伴出遺物のうち土器は縄文時代晩期のヌサマイ式土器に相当する。石器については石斧, 石砥, 搔器, 鏃石, および多量の剥片が出土している。また, 鳥類の長骨を用いて作った針入れが2点, 両人骨に伴って出土した。

3. 人骨所見

頭蓋の計測可能な項目については R. MARTIN (1928)に準拠して計測した。両人骨の計測値をTable 1に示し, 頭蓋の形態小変異をTable 2に示す。

① 1号人骨(成人男性)

頭蓋最大長は計測できないが, グラベラ・イニオン長, ナジオン・イニオン長は津雲貝塚人(清野・宮本, 1926), 吉胡貝塚人(金高, 1928)の男性平均より大きい。頭蓋最大幅は計測不可能である。高径におけるバジオン・プレグマ高, 垂直耳高もやはり津雲貝塚人ならびに吉胡貝塚人より大きい。主縫合については矢状縫合前半部と冠状縫合とが観察可能であり, これらの縫合線は単純である。またこれら縫合は内・外板とも閉鎖していない。外後頭隆起は小さいが, 上項線, 下項線は明瞭であり, 項平面は粗面状を呈する。後頭骨の右側にわずかに横後頭縫合の残存を認める。左乳突上稜の発達著しい。左右の外耳孔は円形を呈する。頭蓋底において左の頸静脈孔は右より大きい。大後頭孔は菱形を呈する。顔面において眼窩はやや傾斜した長方形を呈する。グラベラからナジオンにかけて深く陥凹する。鼻骨における水平輪郭は中凸を示すが, その程度は著しくない。梨状孔下縁は鈍く不明瞭である。鼻棘は2分して骨鼻中隔にかけて溝を形成す

論文番号 8135

* 1979年10月, 第33回日本人類学会・日本民族学会連合大会において要旨発表を行なった。

** 現在, 産業医科大学・第1解剖

る。1号人骨においては鋤骨が残存するので完全な骨鼻中隔が残っており、やや右方に弯曲している。口蓋には著明な口蓋隆起が認められる。内側口蓋管が左右とも見られる。歯列弓は放物線状を呈する。上顎左側切歯が生前に抜け落ちており、その歯槽は吸収されている。そのためか上顎左犬歯がやや正中にかたより脱落歯の間隙は逆三角形を呈する。このことから風習による上顎左側切歯の抜歯とも考えられるが断定はできない。上顎の歯槽突起は大きく、第3大臼歯遠位端から約10mm後方まで続く。上下の歯の咬耗度はすべてBrocaの2度を呈し、咬合様式は鉗子状である。左右とも上顎第2大臼歯の遠位面にエナメル滴が見られる。下顎体は厚く、下顎隆起が認められる。下顎角は外反する。顎舌骨筋線から筋突起にかけて明瞭な稜を作り、下顎枝前縁が厚い。

脊柱については第1頸椎から第8胸椎までの椎骨と、第9から第11胸椎までの椎弓が残る。肋骨は、肋骨頸部と体部の一部を含む破片が若干ある。上肢骨はその多くが骨片状に残る。下肢骨については左大腿骨の遠位端と左脛骨の近位端を残す。これらの四肢骨の保存状態は良くない。

② 2号人骨（成人男性）

頭蓋は下顎骨を除いて右半分を欠く。2号人骨の脳頭蓋は1号人骨と比較して、各計測値は小さめであるが、津雲貝塚人、吉胡貝塚人の男性平均値に近い値を示す。

外後頭隆起は1号人骨と同様に小さい。上項線・下項線は明瞭である。項平面はやや粗面状を呈する。主縫合は冠状縫合とラムダ縫合の各左側を残し、その縫合線はいずれも単純である。これらの縫合は内・外板とも閉鎖していない。頭蓋冠の厚さは1号人骨と比較して薄い。外耳孔は円形を呈する。横後頭縫合の痕跡が左側にわずかに残存する。左乳突上稜は認められる。顔面においてグラベラからナジオンにかけて陥凹するが1号人骨ほどではない。鼻骨は1号人骨に比較して大きく、リニオンが前方に突出した観を呈する。鼻骨の水平輪郭は著しい中凸を示す。左の眼窩はやや傾斜した長方形を呈する。梨状孔下縁は明瞭である。歯列弓は放物線を描く。歯は上・下歯ともすべてそろっており、咬耗度はBrocaの2度に相当する。咬合様式は鉗子状である。左右上顎第3大臼歯遠位面にエナメル滴が観察される。下顎体は1号人骨と比較して厚くはないが、大きさはさほど変わらない。左右に下顎隆起が認められる。下顎角は外反する。

脊柱については第1頸椎から第6胸椎までを残存する。この人骨の第3頸椎から第6頸椎体に変形性脊椎症が観察される。胸骨の胸骨柄は完全に残存する。上

肢骨については不完全な左右の鎖骨、上腕骨、橈骨を保存する。下肢骨は左大腿骨の骨幹の一部および左脛骨の骨幹を残すにすぎず、いずれも保存状態は悪い。

4. ま と め

東北海道における共春遺跡出土人骨と同時期の出土人骨資料に関するまとまった記載としては緑ヶ岡遺跡出土人骨の報告（山口, 1964, 1974）がある。この緑ヶ岡遺跡出土人骨は保存状態が比較的悪く、顔面の形態学的特徴の記載にとどまっているが、それによると、眉間の発達が良く、前頭鼻骨縫合部が深く、眼窩は低く幅広い長方形を呈し、上顎大臼歯にエナメル滴がままた出現することなどの特徴が挙げられている。緑ヶ岡遺跡出土頭蓋の形態は共春遺跡出土の2頭蓋と強く類似しており、縄文時代晩期における東北海道出土頭蓋の一般的な特徴とも考えられよう。今回、多少なりとも計測値および頭蓋形態小変異の所見が得られたことにより、今後の東北海道における縄文時代人・続縄文時代人の出土例の増加をまって、同地域の人骨の形質が一層明らかになることが期待される。

謝 辞

共春遺跡の調査にあたり御高配をいただいた別海町教育委員会教育長武田伺氏、同教育委員会 湧田 憲二氏、佐藤憲夫氏、標津中学校戸田峰夫教諭、ならびに当遺跡の地主であり、発掘に多大の御協力をたまわった杉本よしみ氏の各位に感謝の意を表する。また御教示をいただいた聖マリアンナ医科大学森本 岩 太郎教授、国立科学博物館山口敏博士、札幌医科大学百々幸雄助教授、慶応義塾大学高山博氏に感謝する。

参考文献

- 金高勘次, 1928: 吉胡貝塚人々骨の人類学的研究, 第1部 頭蓋骨の研究。人類誌, 43, 附録. 6: 3-242.
- 清野謙次・宮本博人, 1926: 津雲貝塚人骨の人類学的研究, 第2部 頭蓋骨の研究(後編), 人類誌, 41: 151-208.
- R. MARTIN, 1928: Lehrbuch der Anthropologie. Bd. II, Gustav Fischer, Stuttgart.
- 鈴木 尚・寺沢俊男, 1963: トコロ貝塚の人骨。オホーツ海岸岸・知床半島の遺跡(上巻), 226-229, 東京大学文学部。
- 高山 博, 1978: 東釧路第3遺跡出土人骨(略報), 東釧路第3遺跡発掘調査報告書, 94-96, 釧路市教育委員会。
- 山口 敏, 1964: 釧路緑ヶ岡人骨について, 郷土の科

Fig. 1. Anterior(A) and left lateral(B) aspects of skull K-I.

Fig. 2. Inferior aspect of skull K-I(A) and superior aspect of mandible K-I(B).

Fig. 3. Anterior (A) and left lateral (B) aspects of skull K-II.

Fig. 4. Inferior aspect of skull K-II (A) and superior aspect of mandible K-II (B).

- 学, 43: 28-30.
- 山口 敏, 1974: 北海道の先史人類. 第4紀研究, 12: 257-264.
- 山口 敏・小沼宗心, 1962: IV 発見された人骨について. 東釧路貝塚発掘調査報告書, 37-41, 釧路市教育委員会.
- 山口 敏・山野秀二, 1966: 東釧路貝塚人骨, 昭和40年度発見の新資料, 釧路市立郷土博物館々報, No. 171-173, 16-19.
- 米村哲英・百々幸雄・山口 敏, 1979: 斜里町宇登呂出土の1縄文時代頭骨について. 北海道考古学, 15: 75-78.
- (1981年7月11日 受付)

Human Skeletal Remains of Jomon Period from Kyoshun, Eastern Hokkaido

Yoshisuke HIRAMOTO¹⁾, Katsuyo HONDA²⁾
and Teruzi TOYOHARA³⁾

- 1) *Department of Anatomy, St. Marianna University
School of Medicine, Kawasaki**
- 2) *Shibetsu Junior High School, Shibetsu*
- 3) *Shibecha-Cho Museum, Shibecha*

Kyoshun site was located at the western part of Notsuke district in eastern Hokkaido, Japan. From this site, the skeletal remains of two adult males which belonged to the Latest stage of the prehistoric Jomon period were excavated in 1976. The skeletons were accompanied with the pottery fragments of Nusamai type and several stone tools. The attitude of the first male (K-I) in his grave was unknown, while the second male (K-II) was laid to rest in peace on his left side in crouching posture. The skeletons were mostly in fragments with the exception of the skulls which were in fairly good preservation. It was found that the skulls examined were characterized chiefly by depression of the nasion in profile and median protrusion of the nasal bones in horizontal configuration. The external forms, measurements and non-metrical traits of the skulls were given in Figures 1 to 4 and Tables 1 to 2, respectively.

* Present; Department of Anatomy and Anthropology, School of Medicine, University of Occupational and Environmental Health, Japan, Kitakyushu.

Table 1. Measurements of crania from Kyoshun site in eastern Hokkaido.

Martin no.	Item	K—I Male	K—II Male
2.	Glabella-Inion length	183	170
2a.	Nasion-Inion length	176	166
5.	Basion-Nasion length	103	(98)
7.	Foramen magnum length	34	(34)
11.	Biauricular breadth	(119)	—
13.	Bimastoideal breadth	(98)	—
16.	Foramen magnum breadth	27	(32)
17.	Basion-Bregmatic height	142	(125)
18.	Total skull height	144	—
20.	Porion-Bregmatic height	123	113
21.	Auricular height	125	—
22.	Calotte height	110	—
26.	Mediansagittal frontal subtense	129	115
29.	Mediansagittal frontal chord	112	102
32(1).	Frontal angle	68°	—
40.	Basion-Prosthion length	104	(98)
42.	Basion-Gnathion length	—	(64)
47.	Nasion-Gnathion length	119	115
48.	Nasion-Prosthion length	64	63
49.	Bilacrima breadth	23	24
50.	Bimaxillofrontal breadth	19	20
51.	Orbital breadth	—	42 (1)
52.	Orbital height	33 (1)	34 (1)
54.	Nasal breadth	30	27
55.	Nasal height	52	47
56.	Nasal bone length	14	26
57.	Minimum breadth of nasal bone	8	12
57(1).	Maximum breadth of nasal bone	17	17
57(2).	Upper breadth of nasal bone	10	13
60.	Alveolar length	57	—
61.	Alveolar breadth	—	64
62.	Palatal length	57	49
63.	Palatal breadth	38	40
65.	Condylar breadth of mandible	124	128
66.	Mandibular breadth	(110)	107
67.	Mandibular length	(83)	79
69.	Chin height	39	(31)
70.	Ramus height of mandible	(63)	64
71.	Ramus breadth of mandible	39	39
72.	Total facial angle	83°	—
73.	Middle facial angle	80°	—
74.	Alveolar angle	60°	—
79.	Ramus angle of mandible	120°	124°

Table 2. Non-metric traits of crania from Kyoshun site in eastern Hokkaido.

no.	Item	K—I		K—II	
		Male		Male	
		R.	L.	R.	L.
1.	Metopism	—		—	
2.	Supraorbital nerve groove	/	—	/	—
3.	Supraorbital foramen	—	—	/	—
4.	Meningo-orbital foramen (ala maj.)	+	+	/	—
5.	Accessory infraorbital foramen	—	+	/	—
6.	Interparietal bone	/		—	
7.	Biasteric suture	/	+	—	+
8.	Asterionic bone	/	—	/	/
9.	Occipito-mastoid wormians	/	—	/	—
10.	Parietal notch bone	—	/	/	—
11.	Intermediate condylar canal	—	—	—	+
12.	Third occipital condyle	—		—	
13.	Precondylar tubercle	—	—	—	—
14.	Paracondylar process	—	—	/	/
15.	Hypoglossal canal bridging	—	—	+	—
16.	Foramen of HUSCHKE	—	—	/	—
17.	Foramen ovale incomplete	—	—	/	—
18.	Pterygo-spinous foramen	—	—	/	—
19.	Pterigo-alar bridging	—	—	/	—
20.	Medial palatine canal	+	+	—	—
21.	Epipteric bone	/	—	/	/
22.	Aural exostosis	—	—	/	/
23.	Transverse zygomatic suture	—	—	/	—
24.	Clinoid bridging	—	—	/	/
25.	Accessory mental foramen	—	—	—	—
26.	Situation of mental foramen	M ₁	M ₁	P ₂	P ₂ -M ₁
27.	Mylohyoid bridging	—	—	/	—
28.	Mandibular torus	—	+	+	+
29.	Jugular foramen bridging	—	—	/	—
30.	Condylar canal	—	+	/	/
31.	Accessory optic canal	—	—	/	/

+ : present, — : absent, / : unknown.